

第2学年 大田区外国語活動学習指導案 大森東 OGC（国際教育）

日時：令和7年1月30日（木）第6校時

学級：第2学年1組・A組 21名

場所：2年1組教室

指導者：伊野 綾那

外国語教育指導員：Mosese Rasasea

1 単元名 「ないた赤おに」の世界をひょうげんしよう

2 単元の目標

英語に慣れ親しむために、身近で簡単な語句や基本的な表現を用いて、「ないた赤おに」の音読劇をする。

<国際教育の目標>

- 英語表現を理解し、実際のやり取りにおいて活用する力を身に付ける。
- 相手や場に応じた適切な表現を選ぶことができる。
- 相手に伝わりやすい方法を工夫して表現できる。
- 自分が考えたことを積極的に発信しようとする態度を養う。

3 単元の学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
国際教育 視点の 評価規準	① それぞれの場面の登場人物の会話や気持ちを表す英語表現を、発音している。 ② 登場人物の会話や気持ちを、英語表現と結び付けて、理解している。	① 文章中の登場人物の会話や気持ちなどについて、既習の英語表現の中から適切な表現を選んでいる。 ② 場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、台詞に合うように表現（表情、声、ジェスチャー）を工夫している。	① 場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、台詞に合った表現をしようとしている。 ② 友達と一緒に、歌や音読劇を楽しみながら表現しようとしている。

4 単元について

低学年では、「歌や遊びなどを通して、身近な英語表現に慣れ親しんでいる児童」「自分の考えをしっかりと表現できる児童」を目指している。そこで、身近で簡単な英語表現を用いて音読劇をすることを通して、英語に慣れ親しむことができるようにしたいと考え、単元を設定した。

これまでに、国語科の教科書教材の中で、原作が英語の物語である「スイミー」と「お手紙」を、英語を用いた音読劇にしてきた。

本単元では、「ないた赤おに」を取り上げ、英語を用いた音読劇にした。「ないた赤おに」を扱う理由としては、以下の3点を挙げる。

①深い友情をテーマとしており、一つの教材を教科横断的に読み深めることができるため

大切な友達の幸せのために、自己を犠牲にする深い友情が描かれている。国語科で場面ごとに赤鬼、青鬼、それぞれの心情を読み取るだけでなく、道徳科で自分事としても考えさせる。つい自分本位の言動が見られる本学級の児童の実態を踏まえ、友達との関係を見つめ直すきっかけになると考えた。

②喜怒哀楽が分かりやすく、英語で感情を表現しやすいため

場面ごとに赤鬼の喜怒哀楽がはっきりと描かれている。そのため、英語を用いて豊かな感情表現を引き出すことができると考えた。場面ごとに移り変わる赤鬼の心情をどのように表現するか考え、工夫しながら音読劇を創り上げていきたい。

③日本の文化理解につながるため

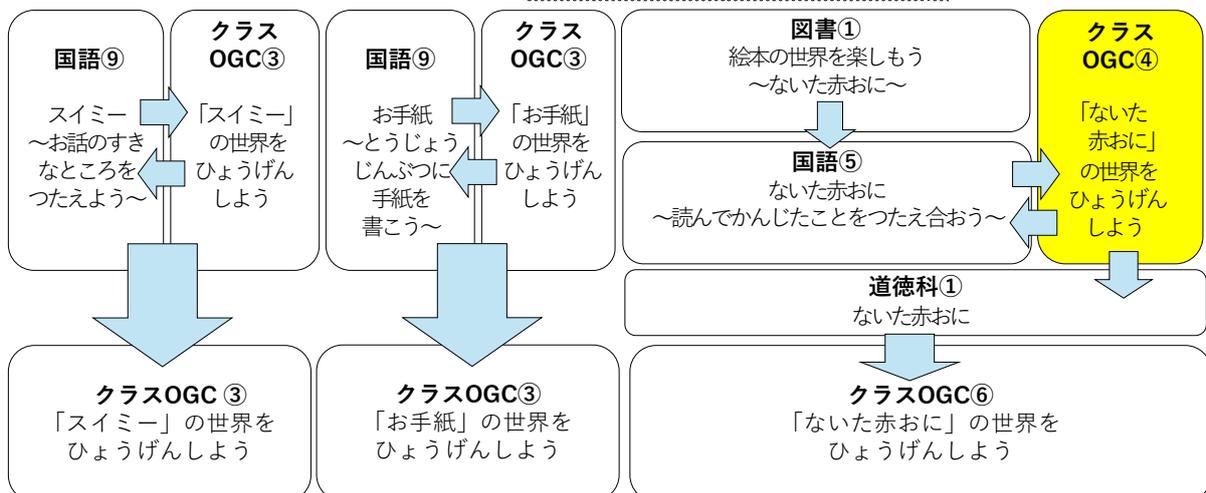
日本で古くから馴染み深い「鬼」が主人公の作品であり、日本の物語を通して、日本文化に興味をもつきっかけとなると考えた。

まず、国語科では、「ないた赤おに」の物語について、場面ごとに登場人物の行動を具体的に想像させる。読み取った登場人物の気持ちは、既習の英語表現でも発音させる。クラス OGC では、英語カードをヒントに、赤鬼や青鬼の気持ちについて英語で表現できそうな箇所を探し、発音させたり、それに合わせた表現（表情、声、ジェスチャー）を考えさせたりする。

次に、学級全体で考えた表現を基に、歌を合わせた音読劇として場面ごとにグループで仕上げ、1年生や保護者の方に向けて発表する。そのような場を設けることで、「自分にもできた。」「英語で表現できた。」「1年生から褒められた。」「外国の方にも伝わった。」という達成感を味わわせると共に、自己肯定感を育むことにつながっていくと考える。

低学年の時期から、音読劇を通して身近な英語表現に慣れ親しみ、楽しみながら発音したり表現したりする力を育てていく。そうすることで、使える英語を身に付け、積極的にコミュニケーションを図ることができる児童を育てていきたい。

<本単元との関連教科等および単元名> ※教科名の横の数字は、授業時数

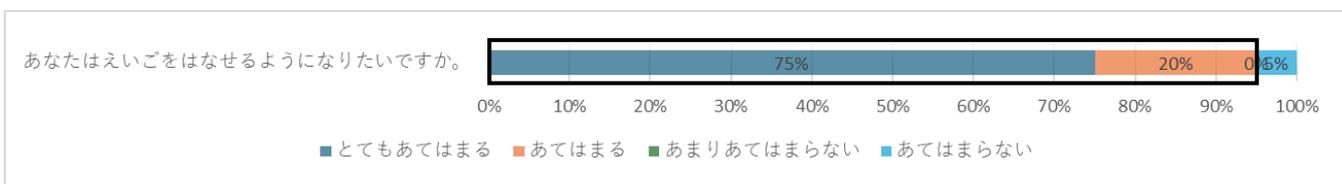


5 児童について

本学級は、21名中6名が外国にルーツをもっている。食事や衣服など、学校生活の中でも様々な文化の違いが見られるが、それをごく自然なものとして受け入れている。道徳科では、大森東小学校のよいところとして、「いろいろな国の友達ができる。」「英語をたくさん勉強できる。」「外国の言葉を話せる友達がいる、かっこいい。」などの意見が挙がり、多様な文化や背景をもった他者を認め合う素地がある。日本語が不慣れな友達に対し、どの児童も積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。また、教科の授業でも、友達が発表する場で、「You can do it!」と応援するなど、英語を使うことに慣れ親しんでいる様子が見られる。

OGCでは、多くの児童が歌やゲームを通して、楽しみながら活動している。OGCTが発音した単語を耳で聞いて繰り返すことに慣れ、初めて聞く単語も臆することなく発音している様子が見られる。特に、買い物ごっこ、お医者さんごっこなど、英語を使って役を演じるスキットの活動は、多くの児童が積極的に参加し、学級全体の前で発表することができた。

学級の児童を対象に、令和6年9月にアンケートを行ったところ、以下のような結果になった。



「英語を話せるようになりたい。」という肯定的な回答が95%となっており、ほとんどの児童が英語を話せるようになりたいと思っていることが分かる。

また、1・2学期に実施した音読劇後には、「生き物になりきって英語を言うのがとても楽しかったです。」「自信をもって英語を言うことができました。」「1年生や家の人に『上手だね。』と言われてうれしかったです。」など、前向きな感想が見られた。

更に、国語科の「お手紙」の学習とクラスOGCで登場人物の感情を英語で表現する活動を積み重ねた。これまで自力で物語の内容を読み取ることが難しかった外国籍の児童が、登場人物の感情を英語で表現する活動を取り入れたことで、登場人物になりきって手紙を書くことができた。国語科とクラスOGCを組み合わせた学習活動が多国籍な学級には効果的だったと考える。

そこで、本単元の学習でも、今まで学習した英語表現を音読劇の中で使うことを通して、物語の世界に入り込みながら文脈の中で英語を使えるようにしたい。また、英語で表現できそうな箇所や表現方法を友達と協力して考え、音読劇を創り上げていく。これらの活動を通して、積極的にコミュニケーションを図り、自分の考えを伝えることができる児童を育てたい。

6 国際教育の視点における指導と評価の計画

時	ねらい	主な学習活動・内容	知	思	主	評価方法
1	英語を用いて1・2場面を表現（表情、声、ジェスチャー）する。	○英語カードの発音を確認する。 ○それぞれの英語表現が本文のどこにあたるか考える。 ○ペアで「I'm kind. Welcome to my house. Yummy sweets. Delicious tea.」「I'm surprised.」の部分の表現（表情、声、ジェスチャー）を考える。	①			それぞれの場面の登場人物の会話や気持ちを表す英語表現を、発音している。 （行動観察・発言・記録）
2 本 時	英語を用いて3場面を表現（表情、声、ジェスチャー）する。	○英語カードの発音を確認する。 ○それぞれの英語表現が本文のどこにあたるか考える。 ○ペアで「I have a good idea. Let's fight!」「No, no.」「I'm bad oni, you are good oni. You are the hero.」「Good idea. But, I'm sorry.」の部分の表現（表情、声、ジェスチャー）を考える。		①		文章中の登場人物の会話や気持ちなどについて、既習の英語表現の中から適切な表現を選んでいる。 （行動観察・発言・記録）
3	英語を用いて4・5場面を表現（表情、声、ジェスチャー）する。	○英語カードの発音を確認する。 ○それぞれの英語表現が本文のどこにあたるか考える。 ○ペアで「Punch! More more.」「I'm sorry.」の部分の表現（表情、声、ジェスチャー）を考える。	②			登場人物の会話や気持ちを、英語表現と結び付けて、理解している。 （行動観察・発言・記録）
4	英語を用いて6場面を表現（表情、声、ジェスチャー）する。	○英語カードの発音を確認する。 ○それぞれの英語表現が本文のどこにあたるか考える。 ○ペアで「Goodbye. Take care. You are my best friend forever.」「Oh, no. I'm very sad.」の部分の表現（表情、声、ジェスチャー）を考える。			①	場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、台詞に合った表現をしようとしている。 （行動観察・発言・記録）
5 6 7 8 9	登場人物の気持ちが伝わるように、英語を用いた音読劇の練習をする。	○グループで音読劇の練習をする。		②		場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、台詞に合うように表現（表情、声、ジェスチャー）を工夫している。 （行動観察・発言・記録）
10	1年生や保護者に「ないた赤おに」の音読劇を発表する。	○音読劇を発表する。			②	友達と一緒に、歌や音読劇を楽しみながら表現しようとしている。 （行動観察・発表・発言）

7 本単元における研究主題に迫るための具体的な手だて

(1) 国語科 ⇔ クラス OGC で音読劇

楽しみながら英語表現を身に付けられるようにするために、「ないた赤おに」を英語を用いた音読劇にした。場面ごとに読み取った登場人物の気持ちを、身近な英語を用いて表現させるために、国語科とクラス OGC を交互に設定した。単元の最後に、他学年や保護者、外国の方などへ発表する場を設け、英語を使って表現できたという達成感を味わわせ、自己肯定感を育ませたい。

(2) 英語カードの活用

児童が英語で表現できそうな箇所を探せるようにするために、英単語を絵とともに示した英語カードを用いた。あらかじめ、教師が児童に使わせたい英語表現を選び、英語カードを作成した。英語力を身に付けさせると同時に、文章中の言葉と英語表現を結び付けて理解させるために、有効であると考えられる。

(3) ペアからグループへ

児童が英語を使うことに対する抵抗感を減らし、楽しみながら表現できるようにするために、ペアからグループへと段階を踏んで学習形態を設定した。

場面ごとに英語表現を考える活動では、英語で表現できそうな箇所を文章中から探し、ペアで役割を入れ替えながら、表現（表情、声、ジェスチャー）を考える。音読劇の練習をする活動では、希望した場面ごとにグループに分かれ、一人一役登場人物を演じる。その際に、登場人物の台詞に最適な表現（表情、声、ジェスチャー）を考えながら練習をする。友達と協力しながら考えたり、表現したりする学習形態を設定することにより、英語を使うことに対する抵抗感を減らし、楽しみながら表現できると考えた。

(4) OGCT と外国語教育指導員の活用

児童の実態に合わせて劇で用いる英語表現を選ぶために、OGCT や外国語教育指導員の支援を受けながら、教材づくりや活動を展開した。教材づくりの段階で、OGCT とともに場面に応じた適切な英語表現を考え、英語カードを作成した。

活動の中で発音を確認する際には、OGCT や外国語教育指導員の発音を実際に聞いて真似ることができるようにした。

8 本時の学習（全 10 時間扱いの第 2 時間目）

(1) 本時の目標

登場人物の会話や気持ちについて、既習の英語表現の中から適切な表現を選ぶことができる。

(2) 本時の展開

過程	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	※研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 5分	全体	1 1 場面から 2 場面までに使った英語を発音する。 2 本時の学習課題を知る。	○1・2 場面の様子を思い出させながら、赤鬼の気持ちを想起させる。 ○国語で読み取った赤鬼の気持ちを想起させ、英語で表現する意欲を高める。		
展開 広げて 深める 35分	全体	3 場めんをえい語でひょうげんしよう。			
	ペア	3 「青鬼の提案」の歌を歌う。	○様子を想像しながら、ジェスチャーもつけて歌う。	※英語カードを基に、身近な英語表現を確認する。	
		4 3 場面で使う英語を発音する。	○英語カードを提示し、外国語教育指導員と発音させる。		
全体	5 英語カードをヒントに、3 場面の文章中から英語で表現できそうな箇所を見付ける。 6 台詞に合った表現方法（表情、声、ジェスチャー）を考える。	○それぞれの英語表現が、本文のどこにあたるか考えさせる。 ☆指導者と外国語教育指導員で英語でのやり取りを見せる。 ○ペアで「I have a good idea. Let's fight!」「No, no.」「I'm bad oni, you are good oni. You are the hero.」「Good idea. But, I'm sorry.」の表現（表情、声、ジェスチャー）を考えさせる。 ☆全員が必ず赤鬼の役をできるようにする。 ●日本語で言う時の表現をヒントに考えさせる。 ☆表情や声の大きさ、ジェスチャーに気を付けて表現できているペアを教師が意図的に選ぶ。	※英語で表現できそうな箇所を文章中から見付けるために、英語カードを用いる。 ※友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、自らの考えを伝えようとする意欲を高めるために、ペアで学習を進める。		
まとめ 5分	個人	7 工夫した表現を全体で共有する。 8 本時の学習を振り返る。	○3 段階評価で振り返りカードに記入させる。 ○数名発表させ、適切な英語表現を選んで、工夫できたことを価値付ける。		登場人物の会話や気持ちについて、既習の英語表現の中から適切な表現を選んでいる。 【イ-①】 (行動観察・発言)